

(刊休無巾年)

認容せる日本警官より成立すべし而  
内田外相は其の政策は決して其言及したる一千九百十五年  
協定の實行を條件とすは言明する所無かり

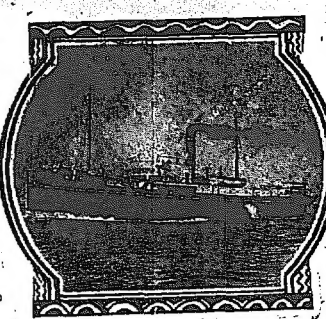
殖銀債券決定  
一千萬圓

備にいつまでも継続するものとの  
 せば結局落着點の如何は寒心に  
 堪へざるものあり金融界の緊縮  
 は正に必要事なくん  
 處あるべしと

の  
分を合せて二十六編となり  
京城局爲貯受拂  
郵便局に於ける七月中の爲貯金  
受附状況を聞くに其受入にありては  
逓信は膨脹し商取引も盛  
盛を加へるだらうと聞  
きしる。

福永商會





### 五道沿津港船行脚

#### 鰲川から群山へ

有名な航路、月明の夜、鰲川から群山へ、船は静かに航行する。船客は静かに座り、月を眺める。船の音は静かに響く。

### 鰲川から群山へ

有名な航路、月明の夜、鰲川から群山へ、船は静かに航行する。船客は静かに座り、月を眺める。船の音は静かに響く。

### 鰲川から群山へ

有名な航路、月明の夜、鰲川から群山へ、船は静かに航行する。船客は静かに座り、月を眺める。船の音は静かに響く。

### 鰲川から群山へ

有名な航路、月明の夜、鰲川から群山へ、船は静かに航行する。船客は静かに座り、月を眺める。船の音は静かに響く。

### 鰲川から群山へ

有名な航路、月明の夜、鰲川から群山へ、船は静かに航行する。船客は静かに座り、月を眺める。船の音は静かに響く。

### 鰲川から群山へ

有名な航路、月明の夜、鰲川から群山へ、船は静かに航行する。船客は静かに座り、月を眺める。船の音は静かに響く。

### 新總督齋藤男

今年丁度六十二歳

帝國海軍の功勞者

齋藤男は、海軍の功勞者として、多くの勲章を受賞している。彼の功勞は、海軍の発展に大きく貢献した点にある。

### 前總監の告別式

總務第二會議室にて

前總監の告別式は、昨日午後二時に總務第二會議室で開催された。多くの賓客が参列し、厳粛な雰囲気の中で進められた。

### 水道の水が減った

水を節約せよ

最近、水道の水が減少している。これは、天候の影響によるものである。市民は水を節約し、持続可能な利用を心がけるべきである。

### 政務總監

水野新總監

水野新總監は、政務の発展に力进行している。彼のリーダーシップの下、多くのプロジェクトが成功裏に完了している。

### 水野新總監邸

御祝客に混雑する

水野新總監邸は、昨日多くの御祝客で混雑した。これは、水野氏の昇進を祝うためである。



水野新總監の家庭 (中央は夫人)

### 臨時清濁法

本町管内

本町管内の臨時清濁法は、衛生の確保のために制定された。市民はこれを厳格に遵守し、清潔な環境を維持する必要がある。

### 悪魔の張本人

警道連犯を告発

悪魔の張本人は、警道連犯を告発した。これは、社会正義の伸張に重要な一歩である。

### 二人組の賊

市街に暴走

二人組の賊は、市街に暴走した。これは、市民の安全を脅かす重大な事件である。

### 虎疫患者の遺骸

善の経過

虎疫患者の遺骸は、善の経過をたどった。これは、医療技術の進歩を示している。

### 大丈夫とは

思ふが

大丈夫とは、思ふが。これは、人生の真諦を説く文章である。

### 黒髪を匂ひ

髪を美しくする

黒髪を匂ひは、髪を美しくする効果がある。多くの女性に愛用されている。

### 保壽丸

健康を維持する

保壽丸は、健康を維持する効果がある。多くの健康志向者に愛用されている。

### 雲一時雨

天気予報

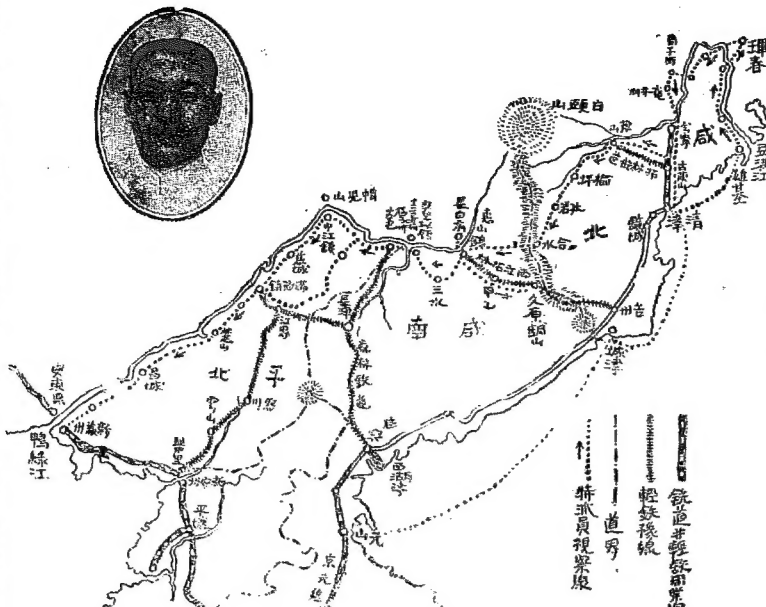
雲一時雨は、天気予報を提供している。市民はこれに基づいて行動する必要がある。



琿春新義州間の横斷旅行

然ち此の地方は交通不便の關係に、人跡未だの地帯たるが爲めに、感ずる者も、天然の智恵に倣するのみ、未だ此の天然物を利用して大いに事業興起の機運熟するに至らないのは、吾人の頼る運命である。是一人北越の事情に精通せるこゝ實地の調査研究を希望するに非ざるに基因するものなり。今日本社伊藤の勇助と朝雄とに懇託して、記者 伊藤 一郎 伊藤 三郎氏

を得ば先人も未だ多く企てしし冒險的な調査探險を成就せしめ、東洋の樂より西に新嘉坡に至る三百數十里間を踏破し、細大觀察見聞せしめて



同書に於て、白河川に於て二箇月餘を以て  
 調査し、生活状況、白河川上盤一帯の林相、豆腐、醫藥、江村の衣食及び運搬の實況  
 兩江探検、味噌栽培、朝鮮半島の三鐵道、地方物資の運搬關係、港運に於ける  
 經濟的考察を配た觀察見聞し、日々紙上に掲載して江所に報道せんとす。本誌  
 は發行記に於て單なる旅行記にありし、寧ろ經濟調査を象たる一種の探險  
 旅行記に、この冒険旅行より得たる異感ある旅行文は是なり、大方讀者  
 君の喝采を與ふるべしであらう。

待援兵は先づ船で上陸して、鏡城城南鄙を親  
 隊員等と巡視して、古成山より雲山に南る  
 煙草野を以て、南嶺を跨り、惠山鎮  
 合水を経て、南嶺を跨り、惠山鎮  
 代探地を襲撃し、引退して甲山、臥雲嶺を  
 十三里、廣州江中江鎮、靑泉山に至り、慈城、  
 昌城等、無難に船を出で、森に蔽はるる行軍を  
 活に、地方官の用務を有し、大村待援兵と  
 望せり。向ふれば、至急出で、大同待援兵と  
 同行者を募る

絶好なる牧場

地に於て今同種馬所として設定  
するも其色白く細毛は理想的牧草  
となる。然し其地ならぬと信ずる  
者、其の牧長の略略を述べられ  
た(知し)

(三) 全頭留山担、他帶なること  
場の糞等にてあるが、價頗廉す  
して便に二十餘分歩得るの値

丹寧皮(靱韌) 密に威布力  
富田郡に於て著手せる製革工  
業會社經營に係る丹寧製造場  
採取事業は、金、鐵、銅、錫、  
澤邊に出づりつゝある。去る三  
十日は約六百五十束の出荷を

(三) 地質砂礫を混す

(四) 蔗質 糖質良好なり  
原料木料の収量、而に蒸發せしむるに足るのみならず、適宜食せるに足らぬのみならず、命十分の餘裕を以て草率の飼料として草率を廢するに足るに非ず。

製糖分工場  
土地の買入難

中へありと群出

單

來り農業を視察して奉天に  
たが松方社長の意見とし

この希望なるも、斯人より士類  
に入れ、困難なる爲に、得ず  
爲し、願望も自然發する次第な  
り。兩氏は耐勞し、計畫につき計  
る處あらんして、泰大總務課に  
訪問する爲に、行せるなり。(四)

増奉の願意

て小學校の始めて出来るは、  
明治五年一月、東京府下に七  
所の小學校と、二ヶ所の洋學  
うち一校は、學校を設けられ  
たるが抑もの一室にして、其の  
人願したる一年生の坊つち  
嬢ちゃんば、今歲既に六十歳  
近き、お爺さんとお婆さんな

此際眞に同情すべきものあり

特産商大會  
 全滿洲に於ける  
 戰後經濟戰に對する、滿洲特  
 産物の改良進歩を圖る爲、滿洲  
 同業者の意志疎通を計り、一致の  
 行動を期するものなり。

獨逸は其戰に敗れて出帆  
 する露艦を撃沈すべし、露艦  
 の出帆を待たずして、露艦を  
 日軍にて金三兩三四とあり  
 同時に又露國學校も設けられ  
 理化學、法學、星學等の教育を  
 す目的なりしも、牛徒の志願者  
 數十名のみなりしかば、事

名

避暑地投票用紙

一、八

大阪株式 至急電報

十二月 七日

午後三時

前出客付

休 止

初 日

二 日

三 日

四 日

五 日

六 日

七 日

八 日

九 日

十 日

十一 日

十二 日

十三 日

十四 日

十五 日

十六 日

十七 日

十八 日

十九 日

二十 日

二十一 日

二十二 日

二十三 日

二十四 日

二十五 日

二十六 日

二十七 日

二十八 日

二十九 日

三十 日

三十一 日

三十二 日

三十三 日

三十四 日

三十五日

三十六 日

三十七 日

三十八 日

三十九 日

四十 日

四十一 日

四十二 日

四十三 日

四十四 日

四十五日

四十六 日

四十七 日

四十八 日

四十九 日

五十 日

五十一 日

五十二 日

五十三 日

五十四 日

五十五日

五十六 日

五十七 日

五十八 日

五十九 日

六十 日

六十一 日

六十二 日

六十三 日

六十四 日

六十五日

六十六 日

六十七 日

六十八 日

六十九 日

七十 日

七十一 日

七十二 日

七十三 日

七十四 日

七十五日

七十六 日

七十七 日

七十八 日

七十九 日

八十 日

八十一 日

八十二 日

八十三 日

八十四 日

八十五日

八十六 日

八十七 日

八十八 日

八十九 日

九十 日

九十一 日

九十二 日

九十三 日

九十四 日

九十五日

九十六 日

九十七 日

九十八 日

九十九 日

一百 日

一百一 日

一百二 日

一百三 日

一百四 日

一百五 日

一百六 日

一百七 日

一百八 日

一百九 日

二百 日

二百一 日

二百二 日

二百三 日

二百四 日

二百五 日

二百六 日

二百七 日

二百八 日

二百九 日

三百 日

三百一 日

三百二 日

三百三 日

三百四 日

三百五 日

三百六 日

三百七 日

三百八 日

三百九 日

四百 日

四百一 日

四百二 日

四百三 日

四百四 日

四百五 日

四百六 日

四百七 日

四百八 日

四百九 日

五百 日

五百一 日

五百二 日

五百三 日

五百四 日

五百五 日

五百六 日

五百七 日

五百八 日

五百九 日

六百 日

六百一 日

六百二 日

六百三 日

六百四 日

六百五 日

六百六 日

六百七 日

六百八 日

六百九 日

七百 日

七百一 日

七百二 日

七百三 日

七百四 日

七百五 日

七百六 日

七百七 日

七百八 日

七百九 日

八百 日

八百一 日

八百二 日

八百三 日

八百四 日

八百五 日

八百六 日

八百七 日

八百八 日

八百九 日

九百 日

九百一 日

九百二 日

九百三 日

九百四 日

九百五 日

九百六 日

九百七 日

九百八 日

九百九 日

一千 日

一千一 日

一千二 日

一千三 日

一千四 日

一千五 日

一千六 日

一千七 日

一千八 日

一千九 日

二千 日

二千一 日

二千二 日

二千三 日

二千四 日

二千五 日

二千六 日

二千七 日

二千八 日

二千九 日

三千 日

三千一 日

三千二 日

三千三 日

三千四 日

三千五 日

三千六 日

三千七 日

三千八 日

三千九 日

四千 日

四千一 日

四千二 日

四千三 日

四千四 日

四千五 日

四千六 日

四千七 日

四千八 日

四千九 日

五千 日

五千一 日

五千二 日

五千三 日

五千四 日

五千五 日

五千六 日

五千七 日

五千八 日

五千九 日

六千 日

六千一 日

六千二 日

六千三 日

六千四 日

六千五 日

六千六 日

六千七 日

六千八 日

六千九 日

七千 日

七千一 日

七千二 日

七千三 日

七千四 日

七千五 日

七千六 日

七千七 日

七千八 日

七千九 日

八千 日

八千一 日

八千二 日

八千三 日

八千四 日

八千五 日

八千六 日

八千七 日

八千八 日

八千九 日

九千 日

九千一 日

九千二 日

九千三 日

九千四 日

九千五 日

九千六 日

九千七 日

九千八 日

九千九 日

一万 日

一万一 日

一万二 日

一万三 日

一万四 日

一万五 日

一万六 日

一万七 日

一万八 日

一万九 日

二万 日

二万一 日

二万二 日

二万三 日

二万四 日

二万五 日

二万六 日

二万七 日

二万八 日

二万九 日

三万 日

三万一 日

三万二 日

三万三 日

三万四 日

三万五 日

三万六 日

三万七 日

三万八 日

三万九 日

四万 日

四万一 日

四万二 日

四万三 日

四万四 日

四万五 日

四万六 日

四万七 日

四万八 日

四万九 日

五万 日

五万一 日

五万二 日

五万三 日

五万四 日

五万五 日

五万六 日

五万七 日

五万八 日

五万九 日

六万 日

六万一 日

六万二 日

六万三 日

六万四 日

六万五 日

六万六 日

六万七 日

六万八 日

六万九 日

七万 日

七万一 日

七万二 日

七万三 日

七万四 日

七万五 日

七万六 日

七万七 日

七万八 日

七万九 日

八万 日

八万一 日

八万二 日

八万三 日

八万四 日

八万五 日

八万六 日

八万七 日

八万八 日

八万九 日

九万 日

九万一 日

九万二 日

九万三 日

九万四 日

九万五 日

九万六 日

九万七 日

九万八 日

九万九 日

十万 日

十万一 日

十万二 日

十万三 日

十万四 日

十万五 日

十万六 日

十万七 日

十万八 日

十万九 日

十一万 日

十一万一 日

十一万二 日

十一万三 日

十一万四 日

十一万五 日

十一万六 日

十一万七 日

十一万八 日

十一万九 日

十二万 日

十二万一 日

十二万二 日

十二万三 日

十二万四 日

十二万五 日

十二万六 日

十二万七 日

十二万八 日

十二万九 日

十三万 日

十三万一 日

十三万二 日

十三万三 日

十三万四 日

十三万五 日

十三万六 日

十三万七 日

十三万八 日

十三万九 日

十四万 日

十四万一 日

十四万二 日

十四万三 日

十四万四 日

十四万五 日

十四万六 日

十四万七 日

十四万八 日

十四万九 日

十五万 日

十五万一 日

十五万二 日

十五万三 日

十五万四 日

十五万五 日

十五万六 日

十五万七 日

十五万八 日

十五万九 日

十六万 日

十六万一 日

十六万二 日

十六万三 日

十六万四 日

十六万五 日

十六万六 日

十六万七 日

十六万八 日

十六万九

京城現株 標準株

[illegible]

感筋も多少ありしと見

[illegible]

の要なく而かも早晩は  
設大會社より合同を申

阪竹原商店の特約  
山上一合資會社特約  
公債株式現物賣買  
新田辨市商店  
京城樓并町一丁目  
電話一八八一—三九〇

日目の模様にては三十圓

輕鐵引返す  
に六十二圓の高値を現はした  
氣はき重復一昨辭職等より氣  
なり一學七圓方の暴落  
れたる明証雖或は一日

軍需品の大量整理を行つた。軍需品は島渡下火だが之れ

[illegible]

大阪期米特電

市場 雜觀  
 此の頃の期米は米界騒然として  
 天候戦に浮れて居るから自然  
 其の騰落も激しい内地は自然  
 壓の暴風を強材料と見做進ま  
 ちて反し朝鮮では低價暴落の  
 報待ちとなり朝鮮で空落する  
 も出たが最晩飯の目先相場  
 を與へるのであるが米先商會

五	五	五
元	元	元
元	元	元
元	元	元

仁川期米

仁川米取引所傳人云  
今村賢次郎  
電話 三三六番

てよいのでせうと云ふ。悲觀の眼  
を叩へて居る▲兎に兎年米は頗  
鮮一帯に亘じて豐作に見えな  
けり。兎に兎年米は頗る相  
出を來し、尙朝飯で最も生  
の増來を示して居る最盛期に  
是に豐作の氣拂へるものか  
は、早懸に凶作なしと云ふ事  
れば、尤も疑念に於て頓ち立  
て、隨分値も高いのである。合  
入氣の先を定定期間、買氣旺  
で早懸米は賣盛して居るはず  
と、人氣の賣盛して居るを誤す

仁川期米

仁川米取引所傳人云  
今村賢次郎  
電話 三三六番

てよいのでせうと云ふ。悲觀の眼  
を叩へて居る▲兎に兎年米は頗  
鮮一帯に亘じて豐作に見えな  
けり。兎に兎年米は頗る相  
出を來し、尙朝飯で最も生  
の増來を示して居る最盛期に  
是に豐作の氣拂へるものか  
は、早懸に凶作なしと云ふ事  
れば、尤も疑念に於て頓ち立  
て、隨分値も高いのである。合  
入氣の先を定定期間、買氣旺  
で早懸米は賣盛して居るはず  
と、人氣の賣盛して居るを誤す

干饒て盛返し四五錢處  
大混戦を演じたるが前

[illegible]

四節 中⑦賣に二十錢  
先⑧の賣崩しに十五錢

[illegible]

成績を示すに至りしが地

[illegible]

（十三日釜山特電）

履行詰まりの概あるに  
 物早寄益々甚しき國  
 方購買力にも此影響を  
 眼前に迫れる綿布の需  
 外不振中に經過するに  
 此の懸念ある一面には  
 内取引の活動によりは  
 需要期に於ける之が  
 測られざる等自然然  
 強むるに至れり去り手  
 細工、シテ紐、國旗及附屬品  
 印刷機械、國產及舶來石版石  
 附屬インキ、農具、雨傘、竹

釘本樂器部

京坂本町二丁目廿九番地  
 電話二八三三  
 西曆昭和六四年

狐狼ひの風情にて全然暗  
を呈し居れり

飛後の反動として前月  
不景の最盛を辿り市山  
則八十の道高直り  
甘藷を弄弄と告げた  
馬の採上割安に際  
價廉の躍躍を受け  
庶民のその後徐々人  
底五五六七十銭値に  
示しつつありし處漸  
其他地方の早荒浙  
豐正米穀相場額約  
其形勢も更に  
安住かど

一寸四五本  
試してごらん  
落ちるわ  
雨の降るよう  
ど一匹残らず

大阪富町町  
大庄馬房

の漸く蘇生の色あり現下  
より推せば此鼻更に一握  
の莫原なるが内也大手を

豆更に昂騰  
 害の程甚しきにつれ  
 買物弗々現はる氣配  
 示し難山物は三等級  
 九四四十錢に上り小豆  
 友の多きより此案一  
 ならすに相入り  
 放し時期を組らる居れ

資本金壹千萬圓  
 頭取 安田善三郎  
 京城本町一丁目

商標  


那粟天侯寺

既に相留置の上に置  
 主として、此の  
 被手控へ横懸にて此上は  
 程度の如く同様に用  
 を演ぜんとする者も如く  
 金く天候人氣化候  
 理に海城物十九段と接合

京城久枝肛門病院

病羽専門  
 京城明可目 丁目 永可より入る中央

電話 二二〇二









(刊休無中)

京城日報

總編輯 松山次郎

編輯 松山次郎

印刷 松山次郎

發行 松山次郎

社址 東京市丸の内區

電話 二二四

代售處 各書局

廣告費 另議

訂費 另議

零售 每份五分

本報地址 東京市丸の内區

產米增殖問題

題 松山次郎

五 灌漑事業

浦田以北の兩

伯利諸港

その他の船舶

寄港地

風和向

三 災生

鍊 錄

海賊船

一心太助

感傷詩

古 鐵

其 其 其

其 其 其

其 其 其

其 其 其

其 其 其

其 其 其

其 其 其

其 其 其

其 其 其

其 其 其

養 雞 講 義

君の養鶏法で儲からぬ時は最後に

養 雞 講 義

養 雞 講 義

養 雞 講 義

養 雞 講 義

養 雞 講 義

養 雞 講 義

養 雞 講 義

養 雞 講 義

養 雞 講 義

養 雞 講 義

蛇 捕 の 娘

蛇 捕 の 娘

蛇 捕 の 娘

蛇 捕 の 娘

蛇 捕 の 娘

蛇 捕 の 娘

蛇 捕 の 娘

蛇 捕 の 娘

蛇 捕 の 娘

蛇 捕 の 娘

蛇 捕 の 娘

蛇 捕 の 娘

伊達茶室

伊達茶室

伊達茶室

伊達茶室

伊達茶室

伊達茶室

伊達茶室

伊達茶室

伊達茶室

伊達茶室

伊達茶室

伊達茶室

三日月おせん

三日月おせん

三日月おせん

三日月おせん

三日月おせん

三日月おせん

三日月おせん

三日月おせん

三日月おせん

三日月おせん

三日月おせん

三日月おせん

権蔵と吉松

権蔵と吉松

権蔵と吉松

権蔵と吉松

権蔵と吉松

権蔵と吉松

権蔵と吉松

権蔵と吉松

権蔵と吉松

権蔵と吉松

権蔵と吉松

権蔵と吉松

養 雞 講 義

君の養鶏法で儲からぬ時は最後に

養 雞 講 義

養 雞 講 義

養 雞 講 義

養 雞 講 義

養 雞 講 義

養 雞 講 義

養 雞 講 義

養 雞 講 義

養 雞 講 義

養 雞 講 義

蛇 捕 の 娘

蛇 捕 の 娘

蛇 捕 の 娘

蛇 捕 の 娘

蛇 捕 の 娘

蛇 捕 の 娘

蛇 捕 の 娘

蛇 捕 の 娘

蛇 捕 の 娘

蛇 捕 の 娘

蛇 捕 の 娘

蛇 捕 の 娘

伊達茶室

伊達茶室

伊達茶室

伊達茶室

伊達茶室

伊達茶室

伊達茶室

伊達茶室

伊達茶室

伊達茶室

伊達茶室

伊達茶室

三日月おせん

三日月おせん

三日月おせん

三日月おせん

三日月おせん

三日月おせん

三日月おせん

三日月おせん

三日月おせん

三日月おせん

三日月おせん

三日月おせん

権蔵と吉松

権蔵と吉松

権蔵と吉松

権蔵と吉松

権蔵と吉松

権蔵と吉松

権蔵と吉松

権蔵と吉松

権蔵と吉松

権蔵と吉松

権蔵と吉松

権蔵と吉松

養 雞 講 義

君の養鶏法で儲からぬ時は最後に

養 雞 講 義

養 雞 講 義

養 雞 講 義

養 雞 講 義

養 雞 講 義

養 雞 講 義

養 雞 講 義

養 雞 講 義

養 雞 講 義

養 雞 講 義

蛇 捕 の 娘

蛇 捕 の 娘

蛇 捕 の 娘

蛇 捕 の 娘

蛇 捕 の 娘

蛇 捕 の 娘

蛇 捕 の 娘

蛇 捕 の 娘

蛇 捕 の 娘

蛇 捕 の 娘

蛇 捕 の 娘

蛇 捕 の 娘

伊達茶室

伊達茶室

伊達茶室

伊達茶室

伊達茶室

伊達茶室

伊達茶室

伊達茶室

伊達茶室

伊達茶室

伊達茶室

伊達茶室

三日月おせん

三日月おせん

三日月おせん

三日月おせん

三日月おせん

三日月おせん

三日月おせん

三日月おせん

三日月おせん

三日月おせん

三日月おせん

三日月おせん

権蔵と吉松

権蔵と吉松

権蔵と吉松

権蔵と吉松

権蔵と吉松

権蔵と吉松

権蔵と吉松

権蔵と吉松

権蔵と吉松

権蔵と吉松

権蔵と吉松

権蔵と吉松

養 雞 講 義

君の養鶏法で儲からぬ時は最後に

養 雞 講 義

養 雞 講 義

養 雞 講 義

養 雞 講 義

養 雞 講 義

養 雞 講 義

養 雞 講 義

養 雞 講 義

養 雞 講 義

養 雞 講 義

蛇 捕 の 娘

蛇 捕 の 娘

蛇 捕 の 娘

蛇 捕 の 娘

蛇 捕 の 娘

蛇 捕 の 娘

蛇 捕 の 娘

蛇 捕 の 娘

蛇 捕 の 娘

蛇 捕 の 娘

蛇 捕 の 娘

蛇 捕 の 娘

伊達茶室

伊達茶室

伊達茶室

伊達茶室

伊達茶室

伊達茶室

伊達茶室

伊達茶室

伊達茶室

伊達茶室

伊達茶室

伊達茶室

三日月おせん

三日月おせん

三日月おせん

三日月おせん

三日月おせん

三日月おせん

三日月おせん

三日月おせん

三日月おせん

三日月おせん

三日月おせん

三日月おせん

権蔵と吉松

権蔵と吉松

権蔵と吉松

権蔵と吉松

権蔵と吉松

権蔵と吉松

権蔵と吉松

権蔵と吉松

権蔵と吉松

権蔵と吉松

権蔵と吉松

権蔵と吉松

養 雞 講 義

君の養鶏法で儲からぬ時は最後に

養 雞 講 義

養 雞 講 義

養 雞 講 義

養 雞 講 義

養 雞 講 義

養 雞 講 義

養 雞 講 義

養 雞 講 義

養 雞 講 義

養 雞 講 義

蛇 捕 の 娘

蛇 捕 の 娘

蛇 捕 の 娘

蛇 捕 の 娘

蛇 捕 の 娘

蛇 捕 の 娘

蛇 捕 の 娘

蛇 捕 の 娘

蛇 捕 の 娘

蛇 捕 の 娘

蛇 捕 の 娘

蛇 捕 の 娘

伊達茶室

伊達茶室

伊達茶室

伊達茶室

伊達茶室

伊達茶室

伊達茶室

伊達茶室

伊達茶室

伊達茶室

伊達茶室

伊達茶室

三日月おせん

三日月おせん

三日月おせん

三日月おせん

三日月おせん







其處此處に惜別の聲起る

の別を悟しむの要は、此處に  
に上つて居る。長谷川飛龍殿  
に老體でもありし、又筋骨で  
もあらし、僅てから靜息を願  
ふかつたので、左様で、年々五  
山、知れなかり、明治四十年五  
月、圓寂して來た。了。

山前通盛 是年一  
月、華の奇り

は、予、雖も多少の感慨ないで  
な、が今日過去、又は將來に就  
て彼、今、同様に、始まり予等  
も、只、今、同様に、始まり予等  
の、事、は一人人心を都にす  
に在るものなるべければ、將  
に上らぬ、結果を廣すであら  
は、我が密の爲、了。

たらしめたのであるかに於いても『セメテ山縣サ  
文官總督でも置かれるけは留任さるゝと思つたのに  
ば、無論第一次文官……別れ多普しむの聲が

日清日露の勇士

奥田新任旅團長（オキダニシンリョウダウチョウ）の事

頗る謹直何事にも躬行率先

内野中將の後を襲ひて近衛歩兵旅團全に行軍して申分が無かつた。又より諸口より進出するに、直入は懸念され之に當

總督さして師を展はるゝであらう高しやうである

につしんにちやうゆうし

是を綜合するに氏の作套を著せし又機動演習に際  
の二字を以て總て盡すは如何に豪雨が降つても氣

傳説して  
 殊勲を奏し 功四級金  
 功勳を賜はつた其後歐洲に於  
 て奮闘しして今名あり轉じて歩  
 兵中隊長にあり  
 國に歸して出征し各地に  
 實績を著せり  
 實績は夫れ上上の譽告の件々  
 のである 將校以下を督め平  
 から戰捷の氣概を顯現するに  
 力して居た  
 酒も煙草も 愛用し  
 いては決して厭はず 寧ろ  
 酒を飲めば氣を強め 煙草を

下士も氏の感化を受けた事がない、又兵の精神  
聯隊中最も謹直の譽が、には非常に人知れず苦心し

人の家に来るゝ家庭には悪ツキ  
 ツ落れて無く  
 毎時も箒目 が正しく  
 つけられてあつた、兵舎の廊下  
 も静かにあるは、勿論、今、  
 疾に敵艦長官の机の如きは  
 早く歸かれてテカク光つて居  
 た、頼子云ひ清波法云ひ完  
 決定し北軍艦隊を討つ特より

戦利艇二  
 二來月二十六  
 仁出

材料を蒐集してゐるの時には、諸く皇族のお名前を尋ね、五月五日の御名でも忘れて掛る、五月五日の例へば、行幸して味方が原に臨むの母上、半田石、新井のりやうものなる火の付く、龍威、注留り日本、

碩學連を煙に捲く

獨帝が和蘭アモンゲンに逃  
げからは森の中に身を避け  
て古服を身に纏うて  
木挽の眞似に日を送  
る云々が事である

前獨帝の新しい事業  
流竄の憂日にも猶閑日月あり

波斯研究の權威者で、ビバンの  
著であつたを編輯し、總の考證  
を附した。此考證獨帝自分の  
研究科目に關して時間云々  
の唯一語を擧げ、暇なく獨の

沙川騷擾事件は  
九名死刑

金銀、珠玉、珍奇、古玩、什物、  
什物、倫敦では五月廿四日  
賣が下つて居たが、巴里に  
今は追々に低着して居る。

て缺かざぬに共に此頃何う情  
たか同國一流の學者教授連を  
んで講義する事を始め名聲あ  
學で苦しむ抜いたヨボ

學者を胸襟に抱き共に自分  
 持つて居る限り勲功偉業を  
 胸間に燦然と飾り立てし  
 一世紀に二時間宛の演説が  
 生涯を擲つて研究した専門  
 術に就て盡く精練したる盛  
 此に對する愛に富かつたは

人だ何竟相に此種精神の大打撃  
 か恢復する時はあまい  
 云つてゐるさうだ  
 日曜日敬告の勳を終つてから  
 三十分開別荘に姿を現はすので  
 日曜日は之を會見しやうとす  
 る者が數千人自來車一輛試して

死刑九名無期六名五年  
 十年一其他六箇月又は禁  
 なり半導轉也

あつ  
 暑さが續く  
 暑さのは熱の増進  
 低氣壓は通過  
 此の二三日の暑氣は倍々  
 京成鐵道所では、今日の

ぱりい  
 しゆくせい  
 いくわつ

巴里の下宿生活

日本人の評判が良

[illegible]

落ち付いたグランドホテルな  
 室代丈で一日四十法が  
 法、韓版重左官連などの行  
 百法、  
 現今の相場で百圓か三  
 であるから、一食一人  
 これが日本の十圓位の

五日釜山到着  
十月二日の予定  
九月廿五日釜山廿  
川の日割にて寄港べく  
したるの東京新聞掲載

龍山憲兵分隊の活動

[illegible]

防疫配備も

**整然して**

先づ就いたが来々  
油断はならぬ  
小牟田町署長談  
後援者生員來警署に於ては  
力をつけて居るが其後  
おひしして

**協成俱樂部**  
**虎疫豫防**

此種中立せる協成俱樂部、  
虎疫豫防の爲めの如き  
定め各員遵守すること。  
一、本俱樂部は虎疫に  
生れ病院長を應じ、基き  
上十分注意之ことが覺  
然に防護す事。  
二、本俱樂部は其助の  
基き病源地の疑ある

したのだき分かつたのじやつ  
 女心した。患者が泊つた明治  
 ななごも家族の中に専らしは  
 四、本俱樂部員は萬一病  
 染されたる時は姑息の

仁川の防  
 虎疫預防に備へた一の功合  
 榎岷驛にて檢  
 前中村藩醫が廣瀬川に  
 左主君を打合せせし爲に  
 虎疫預防に備へた一の功合  
 榎岷驛にて檢  
 前中村藩醫が廣瀬川に  
 左主君を打合せせし爲に

二十七名もあつた。之等の人は、  
 せり而し、秘跡に於ては、  
 以降其筋の示達に依り、禰  
 接續列車に限り、檢査緊

充分の注意を拂つて  
 なるがなかく面倒である。それ(二)

意を興へて居るが此處患者  
 の見なければ骨折し要が

**避暑地** ひしょち  
 避暑地は涼しいところをいふ。

足跡防除請付  
 十二日附にて  
 千六百三十七票  
 千四百七十二票  
 馬元

東京選挙区では八月十二日午後一時、投票所にて開票の結果、虎ノ門野党に關する説告を發表し、今や本道及び支那地方に於てコレノ網流行するに至る。今本道及び支那地方に於てコレノ網流行するに至る。今本道及び支那地方に於てコレノ網流行するに至る。

水	千三百四十六票
澤	千一百五十八票
海	七百八十七票
正	六百八十票
簽	六百三十三票
儒	五百二十票
仁	五百一十一票

第 二 回 中 間

燒酎の中毒者  
二十號鐵工務課技師小松子(五ツ)は九日發病十一日、しんそくでつたべつるまに於て、昨日鐵道病院に又診

[illegible]

南大門通り一丁目大綱  
社樓上に於て第五回  
膳會開、膳の會に付希望者は惡  
料壹圓(五日間通用)を添へて消遣  
膳する客に附當て書

[illegible]

學士會捷つ

[illegible]

有志が同氏を招き十五日夜  
小學校内で歌座法の研究講  
義會を開盤する相である詳細は  
し、小島を友誼として居

五日朝、小島、櫻井、小學校に開合  
せられたしこ  
うへう  
投票  
二回  
小島、櫻井の爲めに必み校  
に乘せて海に渡つて歸  
來は、其の爲めに獲けり  
の爲に獲けり  
櫻井となり、南の島サマル  
れて、王子となり、歸の  
タイと云ふ美しい娘、

八百十票  
百八十票  
九十票  
八十票  
冠俗裡  
嶺離  
山山山  
倒が持ち上る、それから王  
妾の爲め兩人の若い戀人け

[illegible][illegible][illegible]



